

仙台市議会質疑【メモリアル整備関連】

議員質問	市答弁
平成 25 年第 1 回定例会	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災した地域にはそれぞれの歴史、また、個人一人の大切な生活がそこにあったはずで、また、荒浜小学校等についても保護者や児童の思いもある ・ 関係する方々の思いをよく酌み取って、震災メモリアルを検討すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災により失われた防災林の再生、暮らしや文化の記録継承、貞山運河など歴史的建造物の復元、津波遺構の保存などについて、地域の御意見を伺いながら検討していく ・ 教育委員会との役割分担のもと、荒浜小学校校舎の遺構としての利活用などについて地域の皆様と意見を交換しながら検討していく
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市は交通の利便性が高く、内外からのお客様に震災の記憶と教訓を伝えるための条件に優れ、メモリアルプロジェクトへの期待とともに、本市の役割の重要性が増している ・ 移転跡地の買い取りなどが本格化したことを踏まえ、平成 25 年度にメモリアルの検討を本格化させることは時宜を得たものであり、早期実現を図るべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 106 万市民がともに心を寄せ、手を携えながら復興の道りを歩むシンボルとしてのメモリアルプロジェクトの持つ意味は、極めて大きい ・ このプロジェクトは、亡くなられた方々への哀悼の思いや、御支援をいただいた世界中の方々への感謝の気持ちを表明すること、また、大震災の記憶、その中で得られた知見を、新しい防災文化として内外に発信することなど、多くの役割を担っている ・ 風化を乗り越え、杜の都の震災復興の精神を指し示すものとなるよう、幅広いお知恵をいただきながら取り組む
平成 24 年第 4 回定例会	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手県では、県を挙げて被災地バスターを積極的に取り入れている ・ 全国の方々に、被災地が今何に困っているかなどの正確な情報発信が必要であり、被災地のことを真剣に理解してもらえるように、積極的に取り組むべき ・ 市内でも、大震災の被災地を案内し教訓や復興状況を伝える語り部タクシーの運行が、平成 24 年 10 月から行われており、こうした取り組みを強化する必要がある ・ せんだいメディアテークなどで、大震災の教訓展、文化財レスキュー活動展などを開催して、全国に発信すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災の記憶と復興の姿を後世に継承し発信することは、被災を体験した我々世代の責務 ・ せんだいメディアテークでは、市民による復興の記録に関する取り組みを支援したほか、発災後一年間の行政対応に係る記録誌など、各部局において、震災関連の記録を取りまとめているところ ・ 今後、海岸公園へのモニュメント整備や、津波遺構の保存、震災の記憶を後世に伝えるメモリアルの保存、展示のあり方などについて、幅広く検討していく

平成 24 年第 1 回定例会	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東西線整備と連携して、震災の記憶の後世への伝承と教訓の世界への発信の考え方に合致をする津波防災館の誘致を提案する ・ 震災からの復興の象徴的都市である仙台だからこそ、この発信には説得力があり、産学官が連携する学都としての研究、発信にも寄与できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災地の中枢都市である本市は、東日本大震災の記録と復興への取り組みを貴重な教訓として広く内外に発信する役割を担う ・ メモリアル施設の設置場所や機能などについては、市議会や市民との幅広い議論を踏まえて合意形成を図るべき ・ 今後、大学等との連携も視野に入れながら、復興の積極的な発信と交流人口の拡大にも資するようなメモリアル施設のあり方を検討していく
平成 23 年 12 月震災復興推進特別委員会	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他県では到達地点ごとに桜を植えるというような計画もあるが、仙台市でも到達地点を市民と検証し、後世に伝承するためにも設置することを提案する ・ これから生まれ来る子供たちも学習し、この大震災を忘れずに生かされると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災メモリアルプロジェクトにおいて、提案の趣旨も含め、市民の皆様の合意形成を図りながら具体的な取り組みについて検討を進めていく
平成 23 年第 4 回定例会	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙台市復興計画に掲げたメモリアル施設の整備について、津波被災地の中心に位置し、地下鉄東西線に近接する地区への整備、例えば荒浜地区などは市民の皆さんの理解が得やすいと考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点には、具体的な施設整備地区などは未定であり、今後、提案の交通利便性なども勘案しながら候補地区を選定の上、施設の機能、規模、デザインなどについて幅広い市民の合意形成を得ながら検討していく
平成 23 年 11 月震災復興推進特別委員会	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸市のみなとのもり公園を視察し、大変感動して帰ってきた ・ 仙台市でも、この神戸のような市民が参加して芝生を 1 個 1 個手植えして、ドングリの木を植えてという、そういうような目に見えるような形のシンボル事業がよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸のみなとのもり公園では、市民ワークショップや基本設計懇話会など、市民の参画によって整備計画の取りまとめを行っており、震災復興事業の推進の先進事例となっている ・ 震災メモリアルプロジェクトは、市民の幅広い参画により事業を進めていくということが基本になる

【震災復興計画策定前】	
平成 23 年第 3 回臨時会	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸市の人と防災未来センターの来館者数はふえ続けており、館内ボランティアガイドの方々から、被災当事者の我々に対し、日ごろからの啓発と避難訓練が不足していたのではないかと、なぜ逃げられなかったのかなどの指摘があった ・ 未曾有の大震災に襲われた被災当事者の私たちだからこそ、正確に被災状況と被害の深刻さを伝え、後世に続く者たちに同じ不幸を繰り返させない役目がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市でも、防災教育、普及啓発を行うための展示体験施設、また、震災の記録を後世に承継するための取り組みを行う ・ 今後実現に向け、国や県、近隣自治体との連携の仕方やその機能など、多様な視点から検討していく
平成 23 年第 3 回定例会	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 我々が体験した未曾有の自然災害を未来に確実に伝承し、二度と同じような災害に遭わないため、そして、将来的にも備えを怠ることがないように意識をつなぐことが肝要である ・ 津波の被災地区などにモニュメントのようなメモリアル施設を整備するだけでなく、視覚的に訴えられる写真や映像などを直接目で見て、体感できるようなアーカイブを、東の拠点駅である荒井駅周辺のまちづくりの一環として設け、未来の仙台、東北を支える子供たちを初め多くの市民や来訪者に、見て、知ってもらうべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アーカイブや情報発信のための拠点の整備は、復興のシンボルとなる東部地区の将来像を見据えながら、全市的な観点から、その設置の位置や備えるべき機能、施設の規模などについて、関係者の意見をいただきながら検討を進めていく
<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災の記録と記憶を後世に伝えることは、再び同じ犠牲者を出さないため、そして防災意識の向上、防災教育の推進に大切なことである ・ 荒浜小学校は、大津波にも耐え得る補修を施した上で、緊急避難所を兼ねたメモリアル施設としての活用を考えるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な施設のあり方等について、今後、幅広く市民の意見を踏まえながら検討を進めていく